



SNSとの付き合い方

14日の朝刊に、EU（欧州連合）が、3歳未満にはスマホに触れさせないことや13歳未満には保護者や教師の監督下でのみ一定時間のSNS利用を認める案を専門家会議に提言したという記事が載せられていました。

オーストラリアでは、16歳未満の子どものSNS利用を制限する法律が施行されました。16歳未満はアカウントが作れず、運営会社が違反した場合は、51億円もの罰金が科されます。アメリカ、フランスなども規制の動きに進んでいます。世界は事の重大性に気がついていきます。それに比較して日本は・・・。

夏休みは子ども達にとって、時間を自由に使える場面が増えます。スマホ漬けなどという状況が生まれないとも限りません。いや、その心配の方が大きいと感じています。

スマホをまったく使わせないというのは、現状から考えて困難です。せめて、勉強する時と寝るときは電源を切るというルールをしっかりと守らせてください。

東北大学の川島隆太先生が高校生を対象に調査したところ、毎年5～10%の生徒が「毎日そんなに使っていない」と回答すると言います。その子ども達はスマホの電源をONにしているとスマホを見てしまうので、泣く泣くスマホの電源を切っています。そういうスマホの電源を切ることができる子は、努力した分だけ成績が伸びているという事実があるそうです。

小学生の今がスマホとの望ましい付き合い方を身につけるには最適な時期です。勉強する時、寝る時は電源を切る。習慣化させるには、高校生になってからでは遅いと思います。三つ子の魂百までと言います。

さらに恐ろしい事実があります。それは、マイクロソフトのカナダ支社が毎年行っているカナダ人を対象とした調査結果です。2015年、カナダ成人の2割が10秒しか集中力が保てないことが報告されています。そういう人にどういう特徴があるかということ、SNSを毎日利用していたり、スマホでマルチタスクをしたりしています。スマホ漬けは、わずか10秒しか集中力が持たない人間の作り出していると言えます。



川島先生は、スマホ依存からの脱却のために読書を勧められています。

「うちの子は漫画しか読まないんです。」という保護者の方がたまにいらっしゃいます。漫画でいいのです。漫画の中には、大人でも考えさせられるものがたくさんあります。漫画すら読まないことの方が問題です。

子どもに本を選ばせる。選んだ本については意見しない。読んだ後に感想を聞く。本を読む楽しみを子どもに感じさせてあげてください。

校長 篠崎 勇